

踊念仏

この項では
日常の言葉の
中の仏教用語



をご紹介していますが、「踊念仏」は日常では用いませ
ん。では何故か、とといいますと踊念仏が盆踊りの一つの
ルーツであるためにこの度ご紹介と相成りました。

踊念仏は、法然聖人の弟子に念仏を学んだ一遍上人

が、信州の武士の館で念仏を喜ぶあまり僧侶も武士も混

ざり踊りながら念仏を唱え始めたことが始まりです。も

つとも、大本は平安時代中期の空也上人にあるよう

です。一遍上人は時宗を立ち上げ、遊行し各地で踊念仏を

しました。最初は、僧尼で行い、民衆はそれを見ている

興行的なものでしたが、だんだんと民衆も踊るようにな

り、お盆の時期の精霊供養、豊作祈願等が混ざり盆踊り

へと変化をしていきました。各地域の文化、風俗で複雑

に変化を遂げていますので一概にはいえませんが、間違

いなく踊念仏も一つのルーツであると言えます。

ここで大切なことは一遍上人は踊ることが目的では

なく、念仏を称え、阿弥陀如来が煩惱具足

の私をすくうことに喜んだ結果である

という事です。



「家がのつなでも
仏さんが
ついで来るけえの
安心し
藤原新也
老取

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語
を紹介して
います。

飲酒

「いんじゆ」と読みそ
うですが仏教で「おんじゆ」
と読みます。仏教の在家



信者が守るべき五つの戒め(五戒)の一つに不飲酒戒がありま
す。お酒を飲むことで、過失・犯罪の原因となるからです。あ
る小説のセリフに、「英雄など、酒場に行けばいくらでもいる。
その反対に歯医者の治療台には一人もいない。まあその程度
のものです。」とあります。

古典の芸能を聞くと「無明の酔いがさめた」とか「無明の酒」
というセリフが時々出てきます。これは、お酒が正しい道理を
悟らせないことから、迷いの根本である無明に例えてお酒が用
いられます。

五戒は不飲酒戒の他に、不殺生・偷盗・邪淫・妄語がありま
す。これらは、その行為自体が罪です。しかし、不飲酒戒にお
いては、飲酒行為自体が罪ではなく、その結果罪を犯しやすい
ということになりました。和田アキ子さんはいいことを
言いました。番組でお酒のトラブルを犯した芸能人の記事を読



んだ後、「お酒に罪はありません」と。そう
です。お酒に罪はないのです。お酒に罪は無
いのです。